

モデル事業名	西神楽地域における「冬期集住・二地域居住 環境推進モデル事業」
対象地域	北海道旭川市西神楽地域
応募団体名	特定非営利活動法人 グラウンドワーク西神楽
活動概要	<p>北海道の農村では、広域分散の居住形態が行政サービスの効率低下の一因となっている。現在、高齢化の進行に伴い、居住先の除雪など積雪寒冷期の労働負担、病院への通院、買い物など、いわゆる足の確保の困難さが要因となり、農村からの人口が流出し、地域活力の低下が急速に進行している。</p> <p>一方、農村に滞在して農作業を体験し、安全な食を確保したいという都市住民からの需要も見込まれるなど、都市と農村の新たな関係づくりが注目されている。</p> <p>本事業は、これらの状況を踏まえ、西神楽地域における人口減少や高齢化等により生じる課題や都市と農村との連携を見据え、地域住民による冬期集住や都市住民による夏期滞在の取組を具体的実施するための実態調査や地域住民の意向調査を実施し、地域情報拠点を核とした社会実験を通じて当地域の土地利用状況を考慮し、新たな居住形態を踏まえた農村整備のあり方及び農村住民の冬期集住と都市住民の夏期滞在を組み合わせた新たなコミュニティの創生を図るものである。</p>
今年度の主な取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域の合意形成を目的とした検討委員会の設置及び開催</li> <li>② 住みやすいまちづくりのためのタウンミーティングの開催</li> <li>③ 地域の高齢者を対象とした冬期集住意向アンケート調査の実施</li> <li>④ 冬期集住の試行と参加者への実態調査の実施</li> <li>⑤ 都市住民における二地域居住意向ヒアリング調査の実施</li> </ol>
活動結果	<p>当地域の50歳以上の者を対象に、冬期集住の意向調査を実施した結果、独り暮らしになった時、身体が弱くなった時、入居場所が良ければといった条件付きを含め、男女を問わず55%の者に入居意向があった。また、試行で冬期集住に参加した者からは、除雪から解放されたこと、食事の提供があったこと、共同生活による安心感、独り暮らしより便利、離れて住んでいる子供家族も安心していられるなどの感想が多く、冬期集住は地域の課題解決に有効な手段となりうるということが分かった。</p> <p>更に、関東圏在住の二地域居住意向者に対するヒアリング調査では、当地域の魅力として「自然景観・周辺環境」、「観光資源」、「食生活」が期待され、「地域情報や周辺観光情報の提供」、「移住相談窓口の設置」、「割安な移動手段の提供」、「移住体験プログラム」、「地域との交流」が要望された。今後、当地域における受入体制や滞在メニューの検討が必要であるが、地元からは農業体験や地域住民によるパークゴルフ場を活用したイベントがあることと、希望者には就農支援を行うことも可能との提案もあり、夏期二地域居住の展開についても期待が持てる結果となった。</p>

当初予想していなかった効果

当初、冬期集住には当地域の高齢者3～4名の参加を予定していたが、実際に募集してみると18名もの参加希望者があった。施設の規模上、実際の参加者は11名とせざるをえなかったが、試行により多くの客観的データが得られ、当事業の現実的な検証が可能となった。  
また、マスコミ各社の取材があり、当事業が北海道内・外に短期間で周知・浸透された結果、他地域からの具体的問い合わせや、当地域内においては、企業からの集住施設の除雪支援、近隣住民からの副食の提供、施設訪問支援を受けるなど集落機能の維持に向けた互助の精神を高める効果も生まれている。

実施状況(写真)




【写真】冬期集住の試行参加者への実態調査及びマスコミ報道

応募団体名	特定非営利活動法人 グラウンドワーク西神楽
リンク	
部局/担当者名	シーニック担当理事 谷川良一
連絡先	0166-75-5305
推薦市町村名	北海道旭川市